

女性のライフステージにおける健康管理に関する

「家庭看護」の授業評価

大津 美香*・早狩 瑤子*・鎌田 璃沙*・工藤 麻理奈*

Evaluation of "Home Nursing" lessons focusing on health care at women's life stages

Haruka OTSU, Yoko HAYAKARI, Risa KAMATA, Marina KUDO

Key words : 家庭看護 Home Nursing
授業評価 Evaluation of Lessons
女性の健康 Women's Health
思春期 Adolescent
更年期 Menopause

I. はじめに

女子大学生の受けてきた月経教育は、小学校から高等学校まで継続的に実施され、家庭においても半数以上が月経教育を受けた経験があった¹⁾とされる。それらの月経教育の内容については、小学校では月経のしくみや月経用品の使い方、中学校では妊娠に関する内容、高校では避妊や性感染症などの性教育に関する内容²⁾であった。しかし、大学では学問分野別に専門教育や専門基礎教育に関する科目を履修する教育システムであるため、医療系などの一部の学問分野を除いて、大学教育において学生が性や生殖に関する教育に関する科目を学習する機会はほとんどない。2010年に実施された「第5回男女の生活と意識に関する調査」の結果では、性行経験が50%を超える年齢は男性では18歳、女性では19歳³⁾となっており、大学生に対しても、性や生殖に関する知識を得る機会を提供する必要があると考える。

近年情報化が急速に進み、マスコミや雑誌

などで性に関する情報が身近にあり、氾濫する情報に巻き込まれている現状⁴⁾から、性交開始の年代にある高校生には、性や生殖に関する正しい情報を選択するための知識提供が必要になると考える。高等学校学習指導要領(平成30年告示)によると、「家庭」の授業では知識や技術を身に付け、子供や高齢者をはじめとする生活者への理解を深めるとともに、産業や職業に対する関心をもち、生涯にわたって学び続けようとする意欲や態度などを身に付けることも重要である⁵⁾とされ、思春期や青年期の性や生殖や、女性の健康管理に関する教育の必要性は明言されていない。しかし、高等学校教諭の普通免許状(家庭)の取得者においては、性交開始年齢にある高校生の教育に将来携わることから、性と生殖に関する知識を身につける必要があると考えた。

女性のライフステージにおける更年期の特徴的な疾患として、エストロゲンの減少によって生じる骨粗鬆症がある⁶⁾。骨密度の減少を遅らせ、骨折を予防するためには、小児期

* 弘前大学

や思春期など若いころからの栄養の充足や運動などの負荷が重要となる⁵⁾。しかしながら、女子大学生が家庭内において母親からの更年期教育を受けた経験は13.3%のみであった⁶⁾とされ、学校教育においては思春期教育のように更年期教育はほとんど実施されていない。高等学校教諭の普通免許状(家庭)の取得を目指す女子大学生が自身のライフステージにおいて将来経験する更年期の症状や対処法を知り、「家庭」の授業において高校生に将来教授するための知識を獲得しておくことは重要であると考えた。

本研究では女性のライフステージにおいて必要となる妊娠、出産、育児に必要な知識や性教育を含めた思春期教育、更年期教育に関する「家庭看護」の授業において得られた学びや興味関心から、女性のライフステージにおける健康管理に関する「家庭看護」の授業の評価を行うことを目的とした。

II. 研究方法

1. 対象者

A 大学において健康栄養学を専攻し、高等学校教諭の普通免許状(家庭)の取得のため「家庭看護」を履修する1年次学生28名であった。

2. 授業内容及び目標

授業の概要及び目標は表1~4の通りである。全15回のうち、妊娠、出産、育児に必要な知識や性教育を含めた思春期教育、更年期教育に関する「家庭看護」の授業は第2~5回までの4回であった。教材は「家庭看護学(第3版)⁷⁾」に加えて、看護学を専攻する学生に使用されている看護ケアに関するテキストを用いて配布資料やパワーポイントのスライドを作成した。援助の実際については、配布資料やパワーポイントによる説明に加えて、理解が容易となるようVTRを教材として用いた。また、第4回の授業では避妊の方

法に使用する用具を実際に手に触れる体験ができるようにした。

表1 第2回の授業概要及び目標

第2回「母親となる女性の心身の健康管理(妊娠期、分娩期、産褥期の看護)」	
1.	ライフサイクルとは何か
2.	発達段階とライフ・タスク
3.	母親となる女性の心身の健康
4.	妊娠の確定
5.	出産予定日の計算
6.	妊婦の健康管理
7.	出産と育児の準備
8.	妊娠中の検査
9.	パースプラン
10.	分娩と経過(種類・区分・所要時間・過ごし方)
11.	出産後の褥婦の日常生活とセルフケア
12.	産後の家族計画
13.	VTR内容「妊娠・出産と健康」
【目標】母親となる女性の心身の健康について、理解できる。	

表2 第3回の授業概要及び目標

第3回「小児期(出生~学童期)の健康管理」	
1.	乳児の特徴 ①出生時の体重・身長と1歳までの成長
2.	乳児の特徴 ②大泉門・小泉門の機能
3.	乳児の特徴 ③生歯・乳歯・永久歯
4.	乳児の特徴 ④身体発達の評価(カウプ指数)
5.	乳児の特徴 ⑤体温
6.	乳児の特徴 ⑥睡眠
7.	乳児の特徴 ⑦水分代謝、胃の形状(吐乳・溢乳)
8.	乳児の特徴 ⑧胎便
9.	乳児の特徴 ⑨生理的黄疸
10.	乳児にみられやすい健康問題
11.	子どもの事故の特徴
12.	幼児期の子どもの特徴 ①食事と関連する問題
13.	幼児期の子どもの特徴 ②排泄と関連する問題
14.	幼児期の子どもの特徴 ③睡眠と関連する問題
15.	幼児期の子どもの特徴 ④清潔と関連する問題
16.	幼児期の子どもを持つ家族の抱える問題
17.	学童期の子どもの特徴 ①発達課題
18.	学童期の子どもの特徴 ②成長
19.	学童期の子どもの特徴 ③生活習慣
20.	学童期にみられやすい健康問題
21.	VTR内容「身近な中毒事故」
【目標】子どもの成長・発達、育児、小児期に多い病気と健康管理について、理解できる。	

表 3 第 4 回の授業概要及び目標

<p>第4回「思春期、青年期の健康管理」</p> <p>1. 思春期・青年期の特徴</p> <p>①身体的特徴：第二次性徴、初経、身長・体重の増加</p> <p>2. 思春期・青年期の特徴</p> <p>②心理・社会的特徴：人間関係の変化、性の目覚めと悩み</p> <p>3. 思春期・青年期の発達課題</p> <p>4. 青年期の健康問題</p> <p>5. 性教育</p> <p>6. 家族計画、受胎調節</p> <p>7. 避妊の方法</p> <p>8. 性感染症</p> <p>9. 思春期の栄養とダイエット願望</p> <p>10. 神経性無食飲症</p> <p>11. 貧血</p> <p>【目標】思春期、青年期の健康問題と看護、家族計画について、理解できる。</p>

表 4 第 5 回の授業概要及び目標

<p>第5回「壮年期・更年期の健康管理」</p> <p>1. 壮年期の特徴 ①身体的</p> <p>2. 壮年期の特徴 ②心理・社会的特徴</p> <p>3. 壮年期の特徴 ③知的・認知的</p> <p>4. 壮年期の健康問題</p> <p>5. 更年期現症、更年期障害</p> <p>6. 骨粗鬆症とその予防</p> <p>7. 生活習慣病とその予防</p> <p>8. VTR「更年期」</p> <p>9. VTR「禁煙防止」</p> <p>【目標】壮年期・更年期の健康問題と看護について、理解できる。</p>
--

3. 調査方法・内容

各授業の終了後に自記式質問紙調査を実施した。各授業において扱う看護に対する興味・関心の程度、授業評価として各授業内容の理解度と高等学校の教員（家庭）になるうえでどの程度有用性を感じるか、項目を設定した。興味・関心の程度は「1 全くない」～「5 とてもある」、授業内容の理解度と有用性は「1 全く理解できなかった/全く役に立たな

い」～「5 とても理解できた/とても役に立つ」の 5 段階のリッカート尺度を設定した。「あまり/全く理解できなかった」「あまり/全く役に立たない」の場合には、理由を明らかにするため、自由記載欄を設定した。また、第 2 回及び第 4 回の授業後には、授業を通して学んだこと、役に立ったと思うことについて、自由記載による回答を依頼した。調査は 2018 年 10 月～11 月に実施した。

4. 分析方法

リッカート尺度による回答は平均値及び中央値を算出した。また、理解度と有用性については、回答の正規性の有無を確認後、IBM SPSS version 25 を用いて、Spearman の相関係数を算出した（有意水準 5%）。自由記載については内容分析を行った。

5. 倫理的配慮

本研究の目的、方法、個人情報保護、研究参加の任意性、参加の可否により成績に影響する等の不利益が生じないこと等について口頭及び文書を用いて説明を行い、自由意思の下、無記名の調査を実施した。質問紙の回収をもって同意が得られたこととした。所属大学の倫理委員会から承認を得ている（承認番号:2018015）。

III. 結果

1. 第 2 回授業内容の理解度と有用性

配布数は 27 部、回収数及び有効回答数は 27 部（100%）であった。理解度と有用性の授業評価結果を表 5 に示す。1～13 の授業内容において理解度と有用性に 5%水準で有意に関連がみられたのは、「5. 出産予定日の計算」「8. 妊娠中の検査」「13. VTR 内容」「妊娠・出産と健康」であった。その他の内容については有意差がみられなかった。母性看護（母親となる女性の健康管理）の興味関心の平均値は 4.04±1.00 であった。

2. 第3回授業内容の理解度と有用性

配布数は28部、回収数及び有効回答数は28部(100%)であった。理解度と有用性の授業評価結果を表6に示す。第3回授業の理解度と有用性の授業評価結果を表6に示す。1~21の授業内容においては、「3.乳児の特徴 ③生歯・乳歯・永久歯」「7.乳児の特徴 ⑦水分代謝、胃の形状(吐乳・溢乳)」「8.乳児の特徴 ⑧胎便」「9.乳児の特徴 ⑨生理的黄疸」

「12.幼児期の子どもの特徴 ①食事と関連する問題」「15.幼児期の子どもの特徴 ④清潔と関連する問題」「16.幼児期の子どもを持つ家族の抱える問題」の理解度と有用性において5%水準で有意に関連がみられた。小児看護の興味関心の平均値は4.29±0.66であった。

表5 第2回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-13の理解度と有用性
	平均値 標準偏差	中央値	平均値 標準偏差	中央値	Spearman相 関係数
1. ライフサイクルとは何か	4.44±0.58	4.00	4.67±0.56	5.00	0.269
2. 発達段階とライフ・タスク	4.44±0.51	4.00	4.67±0.48	5.00	0.316
3. 母親となる女性の心身の健康	4.48±0.51	4.00	4.81±0.40	5.00	0.269
4. 妊娠の確定	4.44±0.64	5.00	4.70±0.47	5.00	0.345
5. 出産予定日の計算	4.44±0.58	4.00	4.74±0.45	5.00	0.443*
6. 妊婦の健康管理	4.59±0.50	5.00	4.74±0.45	5.00	0.369
7. 出産と育児の準備	4.44±0.50	4.00	4.74±0.45	5.00	0.359
8. 妊娠中の検査	4.41±0.57	4.00	4.70±0.47	5.00	0.456*
9. パースプラン	4.30±0.72	4.00	4.67±0.48	5.00	0.317
10. 分娩と経過(種類・区分・所要時間・過ごし方)	4.52±0.51	5.00	4.70±0.47	5.00	0.349
11. 出産後の褥婦の日常生活とセルフケア	4.48±0.51	4.00	4.74±0.45	5.00	0.232
12. 産後の家族計画	4.41±0.57	4.00	4.67±0.48	5.00	0.269
13. VTR内容「妊娠・出産と健康」	4.56±0.51	5.00	4.78±0.42	5.00	0.418*

n=27

*p<0.05

表6 第3回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-21の理解度と有用性
	平均値 標準偏差	中央値	平均値 標準偏差	中央値	Spearman相 関係数
1. 乳児の特徴 ①出生時の体重・身長と1歳までの成長	4.54±0.51	4.00	4.68±0.55	5.00	0.326
2. 乳児の特徴 ②大泉門・小泉門の機能	4.50±0.51	4.00	4.71±0.54	5.00	0.217
3. 乳児の特徴 ③生歯・乳歯・永久歯	4.50±0.51	5.00	4.68±0.55	5.00	0.432*
4. 乳児の特徴 ④身体発達の評価(カウプ指数)	4.43±0.50	5.00	4.61±0.57	5.00	0.299
5. 乳児の特徴 ⑤体温	4.57±0.50	5.00	4.75±0.52	5.00	0.225
6. 乳児の特徴 ⑥睡眠	4.64±0.49	5.00	4.75±0.52	5.00	0.310
7. 乳児の特徴 ⑦水分代謝、胃の形状(吐乳・溢乳)	4.46±0.51	5.00	4.71±0.46	5.00	0.430*
8. 乳児の特徴 ⑧胎便	4.64±0.49	5.00	4.75±0.44	5.00	0.430*
9. 乳児の特徴 ⑨生理的黄疸	4.50±0.51	5.00	4.71±0.46	5.00	0.474*
10. 乳児にみられやすい健康問題	4.54±0.51	5.00	4.79±0.42	5.00	0.212
11. 子どもの事故の特徴	4.61±0.50	5.00	4.79±0.50	5.00	0.177
12. 幼児期の子どもの特徴 ①食事と関連する問題	4.54±0.51	4.00	4.79±0.42	5.00	0.386*
13. 幼児期の子どもの特徴 ②排泄と関連する問題	4.54±0.51	5.00	4.79±0.42	5.00	0.212
14. 幼児期の子どもの特徴 ③睡眠と関連する問題	4.57±0.50	4.00	4.82±0.39	5.00	0.056
15. 幼児期の子どもの特徴 ④清潔と関連する問題	4.57±0.50	5.00	4.75±0.52	5.00	0.394*
16. 幼児期の子どもを持つ家族の抱える問題	4.50±0.51	4.00	4.71±0.54	5.00	0.375*
17. 学童期の子どもの特徴 ①発達課題	4.54±0.51	4.00	4.75±0.52	5.00	0.354
18. 学童期の子どもの特徴 ②成長	4.54±0.51	4.00	4.75±0.52	5.00	0.354
19. 学童期の子どもの特徴 ③生活習慣	4.54±0.51	5.00	4.75±0.44	5.00	0.289
20. 学童期にみられやすい健康問題	4.57±0.50	4.00	4.82±0.39	5.00	0.162
21. VTR内容「身近な中毒事故」	4.61±0.50	4.00	4.86±0.36	5.00	0.299

n=28

*p<0.05

3. 第4回授業内容の理解度と有用性

女性のライフステージにおける健康管理に関する「家庭看護」の授業評価

配布数は 27 部、回収数及び有効回答数は 26 部 (96.3%) であった。理解度と有用性の授業評価結果を表 7 に示す。1~11 の授業内容について、全ての授業内容の理解度と有用性には強い正の相関がみられた ($p<0.01$)。一方、思春期・青年期の看護に関する興味関心の回答の平均値は 3.88 ± 1.03 であった。

4. 第 5 回授業内容の理解度と有用性

配布数は 26 部、回収数及び有効回答数は 26 部 (100%) であった。理解度と有用性の授業評価結果を表 8 に示す。1~9 の授業内容について、全ての授業内容の理解度と有用性に正の相関がみられた ($p<0.01$)。壮年期・更年期の看護に関する興味関心の平均値は 3.65 ± 1.09 であった。

5. 学生の興味と理解度及び有用性の関連

第 2~5 回の授業において各健康管理の興味関心について相関分析を行った (Spearman 相関係数) 結果、第 2 回と第 4 回の授業においてのみ、看護に対する興味関心と授業内容の理解度及び有用性において、有意な相関関係がみられた (表 9)。

6. 授業を受けての学び・役に立ったと思う内容

第 2 回及び第 4 回の授業を受けての学びや役に立ったと思うことを表 10 及び表 11 に示す。第 2 回の授業では記述の多かったものは【妊娠、出産に関する知識】【これからの自分の妊娠、出産】等であった。第 4 回の授業では【避妊に関する知識】【思春期・性教育の大切さ】【性感染症に関する知識】【責任ある行動】等の記述が多かった。

表 7 第 4 回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-21の理解度と有用性
	平均値	中央値	平均値	中央値	Spearman相関係数
	標準偏差		標準偏差		
1. 思春期・青年期の特徴					
①身体的特徴: 第二性徴、初経、身長・体重の増加	4.58±0.58	4.00	4.73±0.45	5.00	0.780**
2. 思春期・青年期の特徴					
②心理・社会的特徴: 人間関係の変化、性の目覚めと悩み	4.62±0.57	5.00	4.69±0.47	5.00	0.748**
3. 思春期・青年期の発達課題	4.65±0.56	5.00	4.77±0.43	5.00	0.831**
4. 青年期の健康問題	4.69±0.55	5.00	4.77±0.43	5.00	0.905**
5. 性教育	4.65±0.56	5.00	4.73±0.45	5.00	0.732**
6. 家族計画、受胎調節	4.65±0.56	5.00	4.77±0.43	5.00	0.831**
7. 避妊の方法	4.69±0.55	5.00	4.81±0.40	5.00	0.816**
8. 性感染症	4.65±0.56	5.00	4.81±0.40	5.00	0.000**
9. 思春期の栄養とダイエット願望	4.65±0.56	5.00	4.77±0.43	5.00	0.751**
10. 神経性無食欲症	4.65±0.56	4.00	4.81±0.40	5.00	0.831**
11. 貧血	4.69±0.55	5.00	4.81±0.40	5.00	0.816**

** $p<0.01$

表 8 第 5 回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-9の理解度 と有用性
	平均値	中央値	平均値	中央値	Spearman相 関係数
	標準偏差		標準偏差		
1. 壮年期の特徴 ①身体的	4.54±0.51	5.00	4.69±0.47	5.00	0.553**
2. 壮年期の特徴 ②心理・社会的特徴	4.54±0.51	5.00	4.69±0.47	5.00	0.553**
3. 壮年期の特徴 ③知的・認知的	4.50±0.51	4.50	4.73±0.45	5.00	0.607**
4. 壮年期の健康問題	4.50±0.51	4.50	4.73±0.45	5.00	0.607**
5. 更年期現象、更年期障害	4.58±0.51	5.00	4.77±0.43	5.00	0.640**
6. 骨粗鬆症とその予防	4.58±0.51	5.00	4.73±0.45	5.00	0.709**
7. 生活習慣病とその予防	4.62±0.50	5.00	4.73±0.45	5.00	0.768**
8. VTR「更年期」	4.62±0.50	5.00	4.73±0.45	5.00	0.768**
9. VTR「禁煙防止」	4.62±0.50	5.00	4.73±0.45	5.00	0.768**

**p<0.01

表 9 第 2 回と第 4 回の授業に対する興味関心と授業内容の理解度及び有用性の関連

授業内容の理解度と有用性	各看護の興味関心	
	母性	思春期 青年期
第2回「母親となる女性の心身の健康管理(妊娠期、分娩期、産褥期の看護)」		
理解度		
4. 妊娠の確定	0.402*	—
8. 妊娠中の検査	0.408*	—
有用性		
5. 出産予定日の計算	0.440*	—
7. 出産と育児の準備	0.440*	—
8. 妊娠中の検査	0.444*	—
10. 分娩と経過(種類・区分・所要時間・過ごし方)	0.444*	—
11. 出産後の褥婦の日常生活とセルフケア	0.440*	—
第4回「思春期、青年期の健康管理」		
理解度		
1. 思春期・青年期の特徴 ①身体的特徴	—	0.420*
3. 思春期・青年期の発達課題	—	0.432*
4. 青年期の健康問題	—	0.437*
10. 神経性無食欲症	—	0.432*
11. 貧血	—	0.437*
有用性		
3. 思春期・青年期の発達課題	—	0.464*
4. 青年期の健康問題	—	0.464*
5. 性教育	—	0.454*
7. 避妊の方法	—	0.482*
8. 性感染症	—	0.482*
10. 神経性無食欲症	—	0.482*
11. 貧血	—	0.482*

*p<0.05

女性のライフステージにおける健康管理に関する「家庭看護」の授業評価

表 10 第 2 回の授業を受けての学びや役に立ったと思うこと

分類（記載内容数）	主な記載内容
妊娠、出産に関する知識 (24)	経産婦は初産婦に比べて分娩所要時間が短いことは聞いたことがあったが、本当なのだということを知れて驚いた 最終月経初日が妊娠初日とされているため、思春期、青年期のときから自分の月経周期を知っておく必要がある 胎児のためにも、タバコ、酒、薬など悪影響を与えるものは控えるべきだと感じた 妊娠期のライフステージは初めて習い、ためになった 妊娠中の性行は全て禁止されていると思っていたが、可能だと聞いて驚いた 高血圧や糖尿病などを防ぐためにも、こまめな健診や食事管理は大切であると感じた
これからの自分の妊娠、出産 (10)	いつ妊娠するかわからないが、産む際に学んだことをいかしたい 妊娠中の母体への影響や、受けておくべき検査など、将来自分が子供を産むときに役立つ内容であった いつか経験することと思うため、しっかり覚えておきたい 生理期間は記録していたが基礎体温は測っていなかったのでやってみたいと思う 将来ずっとこの内容を忘れないでいたいと思った 妊娠初期には絶対に安静にしていようと思った 産褥期について初めて知り、これからの自分の生活に役立つものと感じた
避妊・中絶に関する知識 (6)	将来自分が計画的に子供を産むときまでは避妊具を使用する等したい しっかりと計画を立てたうえで望まない妊娠は避けなければならない 避妊には女性だけでなく、男性の理解も得なければならない 若い人では妊娠が進んでから気づいて人工妊娠中絶をすることがあると知り、知識不足であると思った
妊娠、出産には周りのサポートが必要 (5)	普段はあまり人に頼らないが、妊娠や出産に関わるときには周りの人を頼ることも大切と思う 出産はパートナーと互いに理解を深めないとうまくいかないと思うため、周りにも正しいことを知ってもらうことが大事である 出産は一人ではできなくて、パートナーの支えも必要だと思った
健康管理の大切さ (4)	妊娠や出産のために、思春期・青年期から健康について考えることは大事だと思う 胎児のためにも自分の健康をよく考えて行動すべきと思った 10代のダイエットも妊娠や出産に良くない影響を与えらると思ったので、気を付けようと思った
妊娠の届出と専門的なサポート (3)	妊産婦に対する制度や母親学級などもあり、母親の不安を取り除いてくれるものと思った 今回初めて妊娠した際、市役所に報告する必要があることを知った 地域のサポートについても理解することが親としての仕事なのだなと思った
これから学ぶことの整理 (3)	家庭科の教員になると、知識を教える側になるため、しっかり復習しておきたい 妊娠や出産時の体の変化や栄養について知識を身につけていきたい
ライフイベントとしての妊娠、出産 (3)	妊娠と出産は人生にとって大きいイベントである 友人が妊娠9週目に入ったので、身近に感じた授業であった
健康とサポートの大切さ (2)	妊娠や出産、育児は簡単に済むものではなく、周囲の協力や自分自身の健康管理に気をつけなくてはならない 妊娠中の健康管理は大事なことはわかっていたが、こんなに胎児に気を遣って、さらに周りの人たちにも助けてもらうことが重要だと再確認できた

表 11 第4回の授業を受けての学びや役に立ったと思うこと

分類（記載内容数）	主な記載内容
避妊に関する知識(18)	避妊の種類がこんなにも多いと思わなかった 避妊方法などはプライベートなことなので聞けなかった人でも、正しい知識が身についたと思った 自分自身の身体や望まない妊娠を避けるためにも、避妊用具の使用法や効果等、正しく理解することの重要性を感じた 避妊用具を実際に見ることは初めてだった 望まない妊娠を避けるために避妊具の使用は大切だと思った 中学、高校で性教育を習ったことがあったが、見たことのないものがあった驚いた
思春期・性教育の大切さ(18)	子供のうちに正しい性教育を行うことは、子供の安全と将来必ず役立つと思うため、しっかり把握しておきたい 中学、高校では1-2回性教育があったが、命の授業として実施することは非常に大事だと考える 性教育は1回だけでなく定期的に行うと忘れにくいと思った 大学に入るもっと前に知っていたら悩まなかったのではないかという情報があった 思春期で学習すれば青年期に正しい避妊法と家族計画が考えられるようになると思った 学校の授業などでも避妊についてもっと教えていくことが大事だと感じた
性感染症に関する知識(15)	母体が性感染症に感染すると胎盤や産道を通うときに新生児に移さないよう自分自身の健康管理がとても大事だと感じた 性感染症についてさまざまなことを学んだが、知らないことが多かった 性感染症はたくさん種類があり、症状も異なるので、予防は大切だと思った 性感染症にはたくさん種類があり、すごく怖いと思った 性感染症は子供にも移してしまうものがあると知り、知識が足りないと感じた
責任ある行動(15)	健康を管理し、感染症を防ぎ、正しく対処するためには、たくさんの情報の中から正確なものを選択することが大切だと思った 自分のため、将来のパートナーや子供のためにも、性に関しての自己管理をしっかりしたい 私はまだ責任感をもって行動していないと思うので、意識していかないといけない 妊娠して困るのは女性なので、自分の身を守らないといけない
思春期の難しさとお親への感謝(11)	今まで通ってきた初経や反抗期は振り返ってみると、ここまで成長できたのは両親のお陰であると思った 親の苦勞を授業からはっきりと知ることができた 思春期の子供と向き合っていくことはなかなか難しいことだと思った 思春期の栄養はとても興味深い内容であり、自分でももう少し勉強したいと思った
授業全体の理解(9)	思春期や青年期の授業内容はちょうど自分の年代の話でとても身近に感じて興味深かった 思春期を過ぎて青年期に入りつつある時期にこの授業を聞いて学んだことがたくさんあった 今回授業ではたくさんのお話を聞くことができて、よかった とても勉強になったと思った 今回の授業で青年期についてよく理解することができた
思春期の身体的トラブル(7)	高校3年生のときの知り合いは神経性無食慾症であったことを今日の授業で知った 自分自身も中学1年生のときに鉄欠乏性貧血で鉄分を一生懸命に摂っていたので、実体験があるとより深く理解でき、授業を受けてとても楽しかった 神経性無食慾症の場合、どのような対処をすればよいのか、どのような食事を与えることが必要なのか気になった 栄養学と合わせて貧血などの勉強も進めていきたい
第二次性徴の精神面の不安定さ(6)	第二次性徴ではどんどん体重が増えていく自分が嫌であったことが昔あり、自分だけではないのだと思った 成熟に対して嫌悪感を抱くことは思春期によくあることなので、理解して覚えておきたい
周囲のサポートの必要性(3)	思春期には多くの悩みを抱えたり、摂食障害に陥ることもあるため、周囲が気にかけてサポートすることも大事だと感じた 思春期や青年期では心身の変化からさまざまな問題が起こりやすく、本人だけでなく、周りからのサポートが必要だと考える
青年期の定義の理解(3)	青年期を30-35歳までとする定義もあるということを知り、驚いた。25歳までだと思っていた
自分の将来の役割(2)	授業を聞いて、体形で悩んでいる女性がいたら、助けてあげられるようにしたいと思った 教員になったときには、子供たちの不安を少しでも軽減させられる人になりたいと思った
青年期の健康問題(1)	青年期の健康問題は女性に多く、摂食障害などが多いので、将来のためにも、相談所や的確な治療が必要だと思った

IV. 考察

各授業のライフステージにおける看護に対する興味関心の平均値は、母性看護は 4.04 ± 1.00 、小児看護は 4.29 ± 0.66 であったが、思春期・青年期の看護は 3.88 ± 1.03 、壮年期・更年期の看護は 3.65 ± 1.09 であった。これらの結果を踏まえて、以下に各授業評価の考察を述べる。

自由記載の内容分析から得られた分類は【 】、主な記載内容を「 」と表記する。

1. 第2回「母親となる女性の心身の健康管理(妊娠期、分娩期、産褥期の看護)」

第2回の全ての授業内容の評価の平均値が4.30以上(中央値4.00~5.00)であり、有用性の平均値についても4.67以上(中央値5.00)が得られたことから、「まあ・とても理解できた/まあ・とても役に立つ」と授業内容を理解し、有用と認識していた。

第2回の母性看護に関する授業を受けての学びや役に立ったと思うことについて、【妊娠、出産に関する知識】では24と最多の記載があった。【これからの自分の妊娠、出産】の分類においても、「将来ずっとこの内容を忘れないでいたいと思った」「産褥期について初めて知り、これからの自分の生活に役立つものと感じた」と、将来に役立つ内容であると強く認識していた。授業内容の理解度及び有用性と母性看護の興味関心の関連においては、母性看護に興味があると「4.妊娠の確定」「8.妊娠中の検査」の授業の理解度が高く、「5.出産予定日の計算」「7.出産と育児の準備」「8.妊娠中の検査」「10.分娩と経過(種類・区分・所要時間・過ごし方)」「11.出産後の褥婦の日常生活とセルフケア」の授業内容を有用と強く感じていることから、女性のライフステージにおいて妊娠、出産、産後と近い将来経験する可能性があるため、自らのこととして捉えており、興味関心が高かったと推察された。「あまり/全く理解できなかった」「あまり/全

く役に立たない」の記載は皆無であり、今後も授業内容を変更せず継続していく必要がある。

2. 第3回「小児期(出生~学童期)の健康管理」

小児看護の興味関心の平均値は思春期・青年期の看護及び壮年期・更年期の看護よりも高かったが、第3回授業内容と小児看護の興味関心の関連については、授業内容の理解度及び有用性との間に有意な相関はみられなかった。一方、授業内容の理解度と有用性においては、「3.乳児の特徴 ③生歯・乳歯・永久歯」「7.乳児の特徴 ⑦水分代謝、胃の形状(吐乳・溢乳)」「8.乳児の特徴 ⑧胎便」「9.乳児の特徴 ⑨生理的黄疸」「12.幼児期の子どもの特徴 ①食事と関連する問題」等の授業の理解度と有用性に正の相関がみられ、興味関心の有無にかかわらず、授業内容を有用と認識すると理解度も高まり、理解度が高いと有用と強く認識されていた。小児期(出生~学童期)の健康管理に焦点を当てた授業については、有用性の認識を高められるよう学生が理解しやすい授業を行う工夫が必要である。

3. 第4回「思春期、青年期の健康管理」

第4回の授業の理解度は4.58以上(中央値4.00~5.00)、有用性は4.69以上(中央値5.00)であり、履修者にとって、理解が容易で役に立つと感じられる授業内容であった。一方、思春期・青年期の看護に関する興味関心の回答の平均値は3.88と母性看護及び小児看護に対する興味関心と比して低かったが、興味関心と授業内容の理解度との関連では、思春期・青年期の看護に関する興味関心と「1.思春期・青年期の特徴 ①身体的特徴」「3.思春期・青年期の発達課題」「4.青年期の健康問題」「10.神経性無食欲症」「11.貧血」の理解度に相関関係がみられた。また、有用性との関連においても、思春期・青年期の看護に関

する興味関心と「3.思春期・青年期の発達課題」「4.青年期の健康問題」「5.性教育」「7.避妊の方法」「8.性感染症」「10.神経性無食欲症」「11.貧血」の有用性に相関関係がみられた。「10.神経性無食欲症」「11.貧血」の理解度と有用性はともに興味関心との間に相関関係がみられた。授業において学んだこと、役に立ったこととして、「栄養学と合わせて貧血などの勉強も進めていきたい」「神経性無食欲症の場合、どのような対処をすればよいのか、どのような食事を与えることが必要なのか気になった」の記載が得られたことから、食事や栄養に関する授業内容に興味関心があると考えられた。その背景には本研究の対象者は高等学校教諭の普通免許状（家庭）の取得と合わせて、管理栄養士を目指していることが関連していると思われる。

授業において学んだこと、役に立ったこととして、【避妊に関する知識】【思春期・性教育の大切さ】【性感染症に関する知識】【責任ある行動】は記載数が多く、「避妊用具を実際に見ることは初めてだった」「中学、高校で性教育を習ったことがあったが、見たことのないものがあって驚いた」「大学に入るもっと前に知っていたら悩まなかったのではないかという情報があった」「性感染症についてさまざまなることを学んだが、知らないことが多かった」等と、過去に学習経験のない内容について知識を得ることができ、将来に役立つと捉えていた。

【思春期の難しさと親への感謝】の分類では「思春期の子供と向き合っていくことはなかなか難しいことだと思った」の記載があり、将来、高等学校教諭になるうえでの対応の難しさから思春期・青年期の看護に関する興味関心の平均値が母性看護や小児看護よりも低かった原因の一つであった可能性が示唆された。一方、「今まで通ってきた初経や反抗期は振り返ってみると、ここまで成長できたのは両親のお陰であると思った」「親の苦勞を授業

からはっきりと知ることができた」と、過去の経験を振り返り親に対する感謝を感じる機会にもなっていた。また、【責任ある行動】では「自分のため、将来のパートナーや子供のためにも、性に関しての自己管理をしっかりしたい」「私はまだ責任感をもって行動していかないと思うので、意識していかないといけない」と、避妊や性感染症の予防に関して、自らのこととして受け止め、今後活かそうとしていた。思春期・青年期の看護に関する興味関心の平均値は高いものではなかったが、「思春期、青年期の健康管理」の授業内容は重要と認識し、「学校の授業などでも避妊についてもっと教えていくことが大事だと感じた」「授業を聞いて、体形で悩んでいる女性がいたら、助けてあげられるようにしたいと思った」と【自分の将来の役割】につながり、必要な授業内容と捉えられていた。

4. 第5回「壮年期・更年期の健康管理」

第5回の授業の理解度は4.50以上（中央値4.50～5.00）、有用性は4.69以上（中央値5.00）であり、全ての授業内容の理解度と有用性に正の相関がみられたことから、履修者にとって、理解が容易で役に立つと感じられる授業内容であった。一方、壮年期・更年期の看護に関する興味関心の平均値は3.65と、2～5回の授業における全ての看護に対する興味関心の中で最も低かった。授業を通して学んだこと、役に立ったと思うことについて、自由記載による回答を求めなかったため、どのようなことを学び取ったのかは不明であったが、壮年期・更年期は思春期・青年期のような過去の実体験や妊娠や出産等のような近い将来のライフステージからは、まだ先にあるため、イメージがしづらく、実感が持てないものと思われた。

全15回の授業において、壮年期・更年期の看護と同様に興味関心の平均値が低かったのは第6回「初老期の看護」で3.568）、第7

回「老年期の看護①」及び第8回「老年期の看護」における認知症の看護ではそれぞれ3.78⁸⁾、3.91⁸⁾、第9回「寝たきり、長期療養者の看護」では3.76⁸⁾、第10回「看取り」では3.76⁹⁾、第11回「家庭看護の基本技術 日常のケア1：環境づくり」では3.56⁹⁾、第12回「家庭看護の基本技術 日常のケア2：清潔ケア、食事の援助」では3.71⁹⁾、第13回「家族が病気になったときの看護：症状別の看護ケア1」では3.68⁹⁾と、高齢者の看護や介護に関する題材をテーマにしたものが多かった。病気やケガの手当てに関する第14回及び第15回の「家族が病気になったときの看護：症状別の看護ケア2」「家族が病気になったときの看護：家庭での救急処置、事故と救急手当」はそれぞれ4.10⁹⁾、4.04⁹⁾と興味関心が高かった。履修者にとって身近なものと感じ、すぐに実践に役立つ内容に興味関心を示していると考えられ、ライフステージで経験するのは先であっても、身近に感じ、興味関心を引き出す内容にしていく工夫が必要であると考えられる。

V. 引用文献

- 1) 宮崎仁美, 加城 貴美子, 塚本博之: 女子大学生の受けてきた月経教育とそれに対する要望 とくに月経随伴症状に関して. 母性衛生, 60(4), 569-576, 2020.
- 2) 財団法人日本性教育協会: 第5回男女の生活と意識に関する調査. 現代性教育研究ジャーナル, 7, 1-6, 2011.
https://www.jase.faje.or.jp/jigyo/journal/sei_kyoiku_journal_201110.pdf
- 3) 富山美佳子: 高校生を対象とする性教育と今後の取り組みに関する文献検討. 看護学研究紀要, 3(1): 1-10, 2015.
- 4) 文部科学省: 高等学校学習指導要領(平成30年度告知) 解説家庭編, 2018.
https://www.mext.go.jp/content/1407073_10_1_2.pdf

- 5) 森川香子: 女性医学からみた骨粗鬆症. 日本転倒予防学会誌, 7(1), 17-20, 2020.
- 6) 千場直美, 吉田ゆり子: 女子大学生の家庭内における月経および更年期教育の現状と関連要因について. 更年期と加齢のヘルスケア, 18(2), 195-203, 2019.
- 7) 松下和子, 花沢和枝, 紅林みつ子, 平野かよ子: 家庭看護学第3版, 医歯薬出版株式会社, 1996.
- 8) 大津美香, 多喜代健吾, 北宮千秋: 高齢者の健康管理や介護に焦点を当てた「家庭看護」の授業評価. 保健科学研究, 10(1): 59-67, 2019.
- 9) 大津美香: 在宅療養者の看護ケアや看取りに関する「家庭看護」の授業評価. 東北女子大学紀要, 58, 25-38, 2020.